

はまぼうふう vol.6 2002. 4. 20.

石狩浜海浜植物保護センター通信

北へ向かうハクチョウやカモなどの渡り鳥の群れが去り、ヒバリたちのさえずりが浜のあちこちで聞こえるようになりました。

雪解けが早かった今年は、植物たちは早々に芽吹き、花を咲かせることでしょう。

この時期、石狩湾を茶色にごす水は、この川がはるか大雪や夕張、暑寒別の山に源を発し、広大な石狩平野の水を集めて私たちのまちにたどりついたことを、改めて実感させてくれます。



北生振の田んぼにやってきたカキワサの群れ

石狩浜花情報

※今年は下表より 1~2 週間ほど早く開花すると思われます。

見頃(月)	5上~中	5中~6上	5下~	5下~6上
花の名前	イソスミレ	ハマハタザオ	ハマエンドウ	コウボウムギ
花のようす				
生育環境		安定した砂地		不安定な砂地

見頃(月)	5下~6上	5下~6上	6上	5下~
花の名前	アキグミ	ヒメイズイ	ハマニンニク	ハマナス
花のようす				
生育環境	安定した砂地	海岸草原・湿地周辺	不安定な砂地	安定した砂地

見頃(月)	6上~中	6上~中	6上~	6下~
花の名前	エソスカシユリ	キショウブ	ハマニガナ	ハマヒルガオ
花のようす				
生育環境	海岸草原・湿地周辺	湿地	不安定な砂地	不安定な砂地

2002.4.20.

浜の春一番の花、イソスミレ

～植物と虫の小さな世界をのぞいてみよう～

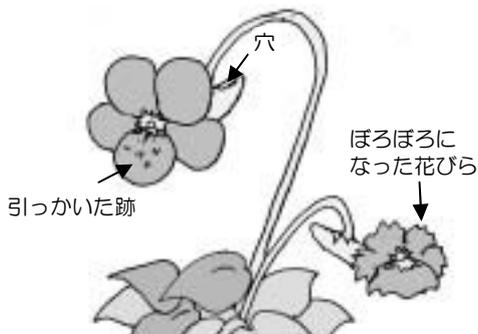
石狩浜で春一番に咲く花、イソスミレ。まだ緑少なく、日本海からの風に冷たさが感じられる春の海辺に、紫色の花をたくさんつけたドーム型の株が点々と散らばる光景は、はまなすの丘の春の風物詩です。

イソスミレは、スミレの仲間の中でも、2cmほどの大きな花をつけ、ピカピカ光る分厚い葉をもち、大きなもので直径30cmくらいにもなる株になって育ちます。



ドーム型のイソスミレの株

↓おしり（距）に穴の空いた花



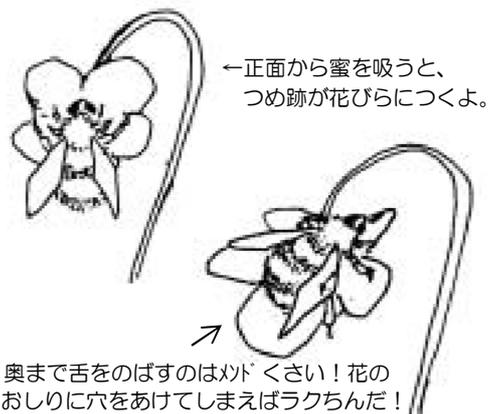
さて、イソスミレの花を観察しながら浜を歩いていると、所々にぼろぼろになった花を見つけます。2cmほどの大きさの花を傷つけたり、穴をあけたりする犯人は一体、何だろう？

1. 風で飛ぶ砂
2. 風で隣の花や葉とこすれた跡
3. 虫

答えは3。風の強い春の浜辺にも、花が咲けばそこには蜜があることを虫たちは知っています。スミレの花びらにひっかいたような跡を残すのは、力のある大きな虫だと予想できます。花の奥にたまった蜜を、長い舌で吸うときに、花びらにつかまります。このときに花びらに引っかき傷を残すのでしょう。スミレの花のおしり（正確には「距」と言います）に穴をあけるのは、蜜が花の奥にたまっていることを知っている虫のしわざです。

これらはどんな虫なのでしょう。昨年の春は、まるく太った毛むくじゃらのハチ、マルハナバチ（ハイメカバチでしょうか）がスミレの花を訪れるのを目撃しました。これが、花びらに傷をつけたり、時に花のおしりに穴をあけている犯人の一人でしょう。また、アリたちがスミレの花の上を歩き回る様子も見られます。甘い物好きのアリも、蜜をねらっているのでしょう。花に痕跡を残していそうですね。他にも、花びらがかじられた跡なども見つかります。イソスミレの花は、春目覚めばかりの虫たちにとって大切な食べ物になっているんですね。

今年は、紫色の花の上に、どんな痕跡を、また、どんな虫を見つけるのでしょうか。みなさんからの発見情報もお待ちしています！



コラム

イソスミレは、新潟県瀬波海岸に多く見られたことから別名セナミスミレと言います。この名前の由来がわかるように、本州の日本海側（鳥取県東部まで）ではかつて代表的な海浜植物でしたが、自然海岸の減少によってと手も少なくなってしまう、今では各地で希少な植物として指定を受けています。石狩浜は、大規模なイソスミレの群生地となっていて大切に保護していかなければならない場所であるとともに、分布北限のイソスミレとしても、大変貴重な場所なのです（最近厚田村でイソスミレの分布が確認されているとのことです。）

鳥たちの話

広びろとした海浜植物の丘にひびく小鳥たちのさえずりは、浜を訪れる私たちの心地よいバックコーラスです。

地面からまっすぐ上に飛び上がり、パタパタと細かく羽ばたきながらピークピークさえずるのはヒバリです。春～初夏に石狩浜を訪れるほとんどの人は、空高く飛び上がるヒバリの姿を目にし、声を聞くことでしょう。ハマナスなどが茂るやぶの中の地面に、おわんくらいの大きさの巣をつくります。空高く飛び上がったり、低木の枝に止まって盛んにさえずるのはオスで、これはなわばりを主張しているのです。石狩浜の海浜植物群落・海岸草原は、ヒバリのみならず、草原でくらす鳥たちにとって大切な子育ての環境と言えます。



ヒバリをはじめ、ノビタキやオオジュリンなど北国の草原で子育てする鳥たちは、秋に南の地方に渡って冬を過ごし、春に再び戻ってくる「夏鳥」です。しかし、彼らが冬を過ごす本州や東南アジアでは、畑や自然草原など生息環境の減少や悪化が進み、鳥たちの姿が見られなくなってきている地域もあるそうです。繁殖地・越冬地両方の環境が良い状態であることが、渡りをする鳥たちを守るためには重要です。

小鳥たちの越冬地がどこなのかは、専門家の間でもまだはっきりわかっていません。しかし、南の地方の人たちが「冬に小鳥が来なくなったなあ」と思うことがないよう、繁殖地である石狩浜の環境を、必ず守っていかなければなりませんね。

冬の間の活動報告

パネル展（2月12日～2月23日）

石狩市花川南・北2ヶ所のコミュニティセンターで、石狩浜の自然の四季を写真で紹介しました。

研究発表・報告会（3月8日）参加20名

石狩海岸の植生と環境条件のかかわりについて、北大大学院農学研究科の佐々木真二郎さんによる研究の発表会を行いました。また、北海道が策定を進める石狩湾沿岸海岸保全基本計画について、説明・報告を行いました。詳細は、別途紹介の予定。

2002.4.20.

ホームページ

3月26日に、レイアウトを大きく更新。新鮮な浜の自然情報を掲載、ぜひご覧下さい！

平成 14 年春～夏までの活動予定・募集

石狩浜自然観察ハンドブックを一緒に作りませんか？

石狩浜の自然を、散策に持ち歩ける冊子にまとめます。情報集めやまとめなどの作業に参加して、浜の自然について、より深く知っていきませんか？お気軽にお問合せください。

募集締切 5月末（6月から作成作業に入る予定）

みどりの里親募集

自分の手で育てた海浜植物の苗を、石狩浜に植えてみませんか？

4月29日に海浜植物保護センターにて海浜植物の苗をお配りします。2ヶ月間、お手元で育てていただいた苗を、6月22日に持ちより、はまなすの丘ビクターセンターの周辺に移植します。

調査ボランティア募集

石狩浜とその周辺に自生する希少植物の状況生育を調べます。花の数を数えたり、大きさを測るなどの作業なので、専門知識は必要ありません。植物のことや自然の調べ方について丁寧にお教えします。興味のある方はお気軽にご参加ください。お待ちしております！調査予定 6月上～中旬

参加希望の方は、5月末日までに当センターまで、希望の旨をお知らせください。

4～7月行事予定

自然観察会

季節ごとに変化する石狩浜を、草花や野鳥を観察しながら歩きましょう。

いずれも申し込みは2日前まで。6/16は、定員になり次第締め切ります。

	時間	集合	コース・内容	定員
5月18日（土）	10時～12時30分	はまなすの丘ビクターセンター	春のはまなすの丘散策	なし
6月1日（土）	10時～12時30分	海浜植物保護センター	石狩砂丘・海岸草原散策	なし
6月16日（日）	9時40分～ 12時10分	9時石狩市役所または 9時30分ビクターセンター	ハマナスかおる、はまなすの丘散策	40名
7月13日（土）	10時～12時30分	はまなすの丘ビクターセンター	夏のはまなすの丘散策	なし

こども自然教室

初夏の1日、浜の自然にのんびりとふれあい、自然のことを学びます。昼食持参。

定員になり次第締め切ります。

6月29日（土）	9時40分～ 14時30分	石狩市役所または 9時30分ビクターセンター	はまなすの丘で 自然ウチガキと砂浜探検	30名
----------	------------------	---------------------------	------------------------	-----

行事への参加申込・お問合せ・通信に関するご意見等は、下記まで。
石狩浜海浜植物保護センター 〒4 061-3292 石狩市弁天町 48 番 1
tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146 email:hamanasu@guitar.ocn.ne.jp